

下 北 駅 前 整 備 促 進  
特 別 委 員 会 会 議 録

( 平 成 1 8 年 1 1 月 7 日 )

む つ 市 議 会

## 下北駅前整備促進特別委員会

○開会の日時 平成18年11月7日 午後 1時00分開会・開議  
午後 2時37分閉会

○場 所 本庁舎旧議場

○付託事件 第186回定例会（平成17年12月21日）付託事件  
（1） 下北駅前整備に関わる諸問題について

○出席委員（12人）

委員長	川下八十美	副委員長	佐々木 肇
委員	濱田栄子	委員	白井二郎
〃	新谷 功	〃	柴田 峯生
〃	久保田昌司	〃	菊池 広志
〃	田高利美	〃	杉本 清記
〃	牛滝春夫	〃	川端 澄男

○欠席委員（3人）

委員	松野裕而	委員	東谷良久
〃	目時睦男		

○説明のため出席した者

収入	役	田中	實
企画部長		渡邊	悟
建設部長		成田	豊
企画部次長		工藤	武勝
建設部次長		村田	幸雄
企画部企画課長		奥島	愼一
建設部用地課長		手間本	富士雄
建設部都市計画課長		山本	伸一
建設部都市計画課長補佐		杉山	重行

○事務局出席者

事務局長 小島昭夫 次 長 高田文明

總 括 主 幹 工 藤 昌 志 主 幹 柳 田 諭  
議 事 係 葛 西 信 弘

(午後 1時00分 開会・開議)

○委員長(川下八十美) ただいまから下北駅前整備促進特別委員会を開会いたします。

ただいまの出席委員は12人で定足数に達しております。

これから本日の会議を開きます。

本日の特別委員会は、下北駅前整備に関わる諸問題についてを議題とし、審査を行います。

まず、本日の会議の進め方についてであります。前回の委員会開催以降の経過と現況について、企画部と建設部からそれぞれ報告を求め、その報告に対し、委員から質疑を受けたいと思っております。その後その他に入り、委員の皆様から何かご意見等があればお伺いしたいと思っておりますが、このような進め方でよろしゅうございますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(川下八十美) ご異議がないようでありますので、本日の会議はそのように進めさせていただきます。

それでは、企画部と建設部から、前回の委員会開催以降の経過と現況について報告をお願いしたいと思います。

○企画部長(渡邊 悟) それでは、企画部からでございますが、その後の前回以降の経過につきましては、特に動きがございませんので、現在は申し述べることはございません。

以上でございます。

○建設部長(成田 豊) 本日の委員会では、今年度実施しておりますこれまでの経過等にご説明させていただきますが、その前に去る8月8日に開催されました3回目の委員会で柴田委員から、どういう設計内容で入札されたのかというふうなご質問があり、資料が手元になかったことから、大変ご迷惑をおかけいたしました。その際、助役から業者は5社を指名しまして、設計コンペに近い内容で実施したとの内容でお答えしておりましたが、実態とはちょっとかけ離れた内容の答弁になっておりました。本来であれば発言いたしました助役が直接訂正しなければならないところでございますけれども、あいにく本日は、さきの臨時会でもご報告してありますように、10月6日から8日までの接近した低気圧による漁港被害の復旧に関する要望のために、三村青森県知事、それから横浜風間浦村長と上京しております。改めて委員長並びに委員の皆様方のお許しをいただきまして、私から補足という形で説明をさせていただきたいと思っておりますので、特段のお取り計らいをお願いいたします。

本事業につきましてでございますけれども、当市からの要請によりまして、平成10年度に財団法人電源地域振興センター事業といたしまして、下北駅周辺整備基本構想策定調査を実施しております。その後平成13年度に市が下北駅周辺整備基本計画調査を実施いたしまして、基本的に必要な施設並びに配置計画を定めたところでございます。これらの基本構想及び基本計画を踏まえまして、本年1月10日に市内の業者3社を含む8業者を指名し、1月11日から17日までの7日間にわたりまして関係書類を縦覧していただき、その際特記仕様といたしまして、広場対象面積は約0.5ヘクタール、概算工事費は2億6,400万円、作業範囲は地質調査及び実施設計とし、委託期間は12月22日まで、そしてその成果品は平面図、整地計画図、地割図、各施設詳細図、数量計算書、工事費算出表等として1月18日に指名競争入札を執行しております。その結果、八戸市の佐藤技術株式会社が落札いたしまして、現在この落札業者と実施設計について協議を進めているところでございますので、ご理解とご了承を賜りたいと存じます。

次に、皆様方のお手元に配っております資料についてご説明いたします。

現在下北駅前広場整備事業にかかわる下北駅前広場調査設計を進めているところでございます。その配置計画案ができましたので、本日お手元に配らせていただきました。第1回目の特別委員会で委員の皆様方には計画参考図をお示ししておりましたけれども、さきにご説明しておりますように、用地交換がなくなったことによりまして、改めて全体的なレイアウトを見直すことといたしております。主要な施設の変更はないものの、用地全体を活用した計画案としたところでございます。

それでは、具体的に現在考えている計画案をご説明いたします。まず、図面の左側にあります駐車場でございますけれども、一般車両48台、身体障害者用3台分の合わせて51台で計画しております。駐車場の設定台数でございますけれども、私どももいろいろ外回りをする機会がありますので、その機会あるごとに駐車台数等の実態調査をしております。その結果に基づいて51台というふうなことに設定しております。なお、これは交換する前は39台ほどしかなかったのですけれども、皆様方のご意見でもっと広く使えというふうなアドバイスがございましたので、51台に高めることができました。

それから、一般車の乗降場は駐車場の一角に、また路線バス2台分の乗降場は駅舎の北側に設定しております。それから、タクシー用の降場は駅前に、また乗場は駅舎の北側に設けてあります。そのほかにバスプールを3台分、それからタクシープールを10台分計画しております。これらも当初よりはそれぞれふやしております。そのほかに、自転車の駐輪場は60台分、それから

公衆トイレは駅舎の右側の近いところに1棟、これは男性用小便器が2基、大便器が1基、女性用は2基、そのほかに身体障害者用として1基を考えております。

また、観光案内板はバスの乗降場、また限られたスペースでありますけれども、植栽ができるような花壇スペース、これはピンクで示しているところに設置しております。

それから、新駅舎の左斜め下にモニュメント設置も考えております。現在このような計画をもとに設計作業等を進めておるところでございますけれども、交換を予定しておりました用地の活用につきましては、ロータリーを大きくとり、またバスプール、先ほども触れましたけれども、タクシープール等をふやしております。さらに、夏の期間はコスモスを植えるスペースといたしまして、それはまた冬期間は除雪用の雪置き場に活用することとしております。これは、右側の出っ張った部分でございます。

次に、JRの駅舎につきましてでございますけれども、市で移転補償費を支払いいたしまして、JR側で駅舎を建設することになります。現在JR東日本盛岡支社と鋭意協議を進めているところでございますが、規模等につきましては、まだJRから示されておりませんので、来年度に入ることになるようであります。

それから、図面にありますとおり、我々といたしましては、でき得る限り駅舎からホームへはスムーズに移動できるようにしたいと考えております。そのことにつきましてもJR側へ検討をお願いしております。現在の駅舎は、県道からかなり低いところにあります。約70センチぐらい低くなっておりますが、今後用地造成をいたしまして、その段差の解消を図っていきたいというふうに考えております。ただし、駅のホームはさらに一段高くなっております。造成した後でも駅前広場と新たな駅舎とは約45センチ、階段にすれば3段ぐらい、また駅舎とホームとも45センチぐらいの高低がありまして、合わせまして90センチメートルの段差が生ずることとなっております。このような段差解消やその他の工事にかかわる諸事情を含めまして、利用者の安全対策など、現在JR東日本盛岡支社と駅舎にかかわる詳細について協議を進めているところでございます。

次に、民有地の用地取得についてでございますけれども、おかげさまで地権者から快く対応していただいておりますので、用地取得に向けたさまざまな調査等にご協力をいただいております。今年度中に可能な限り用地を取得したいと思っておりますので、12月定例会には用地取得の予算を計上したいというふうに考えております。

なお、現在設計業務と同時に事業認定申請業務も進めておりますが、事業認定の申請の際に、地権者の同意書と用地取得の予算の裏づけが必要になってまいります。委員の皆様方にはこのような事情をご理解いただきまして、現段階ではまだ予定でございますが、12月定例会での用地取得の予算化につきまして、よろしくご協力をいただきたいと思います。

次に、平面図が出てきまして、事業費もかかわってきます。想定している事業費についてでございますけれども、設計途中ということで、あくまでも現段階での概算額であるということをご理解いただきまして、説明をさせていただきます。このお手元の計画案で進めることになると、さきにご説明をしておりますとおり、総事業費で約6億円程度になります。事業課といたしましては、さまざまな設備を導入したいというふうな考えもあったわけでございますけれども、企画部との協議のうえ、現在の財政状況を考慮しますと、身の丈に合った整備ということで計画をしているところでございます。

それから、設計図を見ておわかりだと思いますけれども、用地の交換がなくなったことによりまして、事業用地がふえておりますが、必要最小限の設備をもって事業費を当初に計画した事業費としておるところでございます。なお、用地取得費につきましても、当初予定しておりますとおりで増減はないものというふうに今検討しているところでございます。もう少しでございます。ついでに来年度以降の予定についても、少しお話をさせていただきます。

まず、用地取得につきまして、先ほども申し上げましたように、事業認定の許可を得た後、可能な限り民有地を今年中に取得したいと考えております。価格等については、今鑑定結果が出ておりますけれども、これから交渉を進めさせていただくものですので、公表は差し控えさせていただきたいと思っております。

次に、駅前広場の工事でございますけれども、平成19年度では下北駅に向かって左側の駐車場側を、平成20年度では右側のロータリー部分を整備し、2カ年で完成させたいというふうに思っております。

次に、駅舎でございますけれども、これは先ほどお話ししましたように、JRが整備するわけでございますが、駅前広場工事とリンクさせる形で工事を進めてもらうこととなります。駅舎工事は、平成20年度の単年度の完成を目指しておりますことから、JRとは今後とも詳細にわたるさまざまな協議が必要になってまいりますことと考えております。いずれにいたしましても、JRを利用されます通勤通学客、さらには観光客などが毎日利用している駅でございますので、これら利用者の安全を第一に考えまして、工事を進めてい

かなければならないものと思っております。その点は、JRともども十分に注意を払い、進めてまいり、なお一層の協議をしてみたいと思っております。

このような安全確保の観点からも、最短の2カ年での事業完成という設定をいたした次第でございますので、ご理解を賜りたいと存じます。

以上でございます。

○委員長（川下八十美） 次は、ただいまの報告に対し、質疑を受けたいと思っております。

なお、質疑に当たりましては、毎回お願いしておりますが、下北駅前整備促進の目的にそぐわない発言等には十分ご留意をお願いしたいと存じます。

それでは、ただいまの報告に対し、何か質疑ございませんか。

○委員（川端澄男） 今この図面を拝見しておりましたけれども、今まで作成した図面が、もうかれこれ10枚ぐらいあります。これは、だれが設計したのか。今この手元に渡った図面で決定するのか、この図面はだれがかいたのか、これを1点、先に聞きます。

○建設部長（成田 豊） 設計をしたのはどこかというお話でございましたけれども、先ほど指名競争入札によって落札されました八戸市にあります佐藤技術株式会社とこれまで協議のうえで設計していただいたものでございます。しかし、その基本となるものは、原本となるものは、先ほども申し上げましたように、平成10年度に実施いたしました整備基本構想、それから平成13年に実施しておりました整備基本計画、その調査書にほぼ大体このような大きなレイアウトは内定しておったと。というのは、奥行き44メートル、それから県道沿いの距離を見ますと135メートルという、こういう非常に長方形のところにそういう必要な施設をおさめるというふうなことになるれば、大体の動線等を考えればこういう線に落ちつくのではないかなというふうに思っております。この設計の詳細は、今佐藤技術と協議しながら進めてここまで来たものでございます。

それから、これで決定かというふうなことでございますけれども、今まで委員方には余り提示したことがございませんでした。皆さん方せっかく特別委員会を設置しているわけでございますので、市民の代表というふうなことで皆さん方からの意見もお聞きしながら、さらに決定までの参考にさせていただきたいと思っております。予算の絡みもありまして、すべてそのようにできるかできないかは不安な部分はございますけれども、意見は意見として聞いて、設計会社等と協議を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。



○委員（川端澄男） 大体わかりました。これでこの図面は決定したというわけではないということでもありますね。

それから、もう一つ、駅舎の方の問題、実は駅舎をやる場合にはＪＲと相談すると、こうなっておりますけれども、私が交通問題対策特別委員長をしていた当時、ＪＲ東日本盛岡支社へ陳情しました。そのときには、企画部の下山部長も一緒に行ったのだけれども、今は退職しましたけれども。そのときは、この駅舎の問題はＪＲの方で設計をなさっているということだったのです。ところが、その委員会の我々の陳情の中で、向こうの盛岡支社の何とかという、その部長が、駅舎とか、また駅前広場は地元でやりなさいと。ＪＲでは口は出すけれども、金は出さない、こういう話なのです。ごみ拾うのも町内会がいるでしょうと、こういう話でありました。今部長が駅舎はＪＲと相談すると、こういう話でありましたけれども、実はこの下北駅周辺整備促進協議会というものが平成６年１１月２７日に設立なされたわけでありまして、そのときには今の協議会の会長が下北町の町内会長でありまして、その総会において、私と蓮井会長と相談した結果、やっぱり下北の駅前整備はしなければならないということから話がとんとんといきまして、そして１１月２７日にこれが設立なされたところであります。

それで、時間の関係もありますから、実は去年、おとしですか、下北町の会長初め皆さんがかなりこれに熱意を持っているわけでありまして、一つは津軽の今別町ありますね、ここには今別と津軽二股という駅があります。これは、ＪＲ津軽線と津軽海峡線であります。ここに道の駅と合体したものがあります。ＪＲでは、この駅舎を建てる場合には、さっき話したのが、口は出すけれども、金は出さない方の話なのだけれども、これにＪＲでも金を出しているのか、ここを１点。

それから、もう一つ、ついでに岩手県の野田村に、ここには陸中野田駅があります。これは、三陸鉄道が走っているわけでありまして、ここにも道の駅があります。実は津軽二股駅と野田駅は、改札口がどこにあるかわからない。みんな道の駅で、もういっぱいです。ということは、山のもの、里のもの、海のもの、これがこの道の駅で物すごく売れているわけです。これは、ＪＲの方は関係ないと思うのだけれども、津軽二股駅はＪＲの津軽線が停車するわけでありまして、ここにＪＲで金を出したのか。今下北駅の場合、私が委員長のときには、金は出さないと、口は出すと。これではちょっと。この下北駅周辺整備促進協議会には、二百四、五十名の方が参加協力しているわけで、下北駅は下北半島の窓口で、むつ市の本当の中心部であります。ここにもこの会に入っている人がいっぱいあります。それだけ関心を持って

いる下北駅であります。これから先下北駅の駅舎を、今部長は相談すると言  
うのだけれども、これに電源三法交付金はわかるのだけれども、JRでは金  
を出すのですか、出さないのですか。これを私はひとつ疑問に思っているの  
です。ここまで一応お願いします。

- 建設部長（成田 豊） ただいま詳細の例を挙げられましてのお尋ねでござ  
いましたけれども、JRでお金を出すのか出さないのかという点についてお  
答えいたします。

現在ある駅舎について、移転していただくことになりますので、市の方と  
いたしましては、移転の補償料を出すことにいたします。

それから、駅前広場を整備するためにJRで持っている土地についても、  
必要な部分についてはうちの方で買い求めて広場の整備に充てることにいた  
します。JRの方では、駅舎を建てる分の必要な土地は自分たちの土地で、  
その上の建物も市の方から出されず移転補償料等で建設することになって  
おります。ですから、自分たちの駅舎を建てる土地は自分たちで持たなけれ  
ばならないし、また駅舎を建てる費用についても、JRの方で持つというこ  
とになります。

以上でございます。

- 委員（川端澄男） 今建設部長が、駅舎を建てる移転費は市の方で出すのだ  
と、しかしこの駅舎の方にはJRで金を出すのですか。これはっきりしてお  
いてもらわなかったら、我々下北駅周辺整備促進協議会の会員がだまされる  
ような感じもありますから、これをしっかりJRから聞いてもらいたい。も  
う一度これ間違いありませんか。

- 委員長（川下八十美） 建設部長、いわゆる駅の移転料は市が出して、それ  
を建物に充てるということなのだけれども、移転料と建物を建てるのとの金  
額的なのが一致するか、差が出てくるかということもありますから、その辺。

- 企画部長（渡邊 悟） 移転で建物を建てる分につきましては、市が負担す  
ることになっています。それは、移転補償料で結局賄うということになりま  
す。

- 委員長（川下八十美） 暫時休憩します。

午後 1時32分 休憩

午後 1時41分 再開

- 委員長（川下八十美） 休憩前に引き続き会議を開きます。

そのほかに、何か質疑ございませんか。

- 委員（菊池広志） 今ちょっと話を聞きまして、大変わかりづらい部分が出

てきまして、先ほど建設部長から総事業費約6億円という話がありました。そして、その6億円の中には用地取得、それからこういうもろもろのこちらにかかっている色を塗った部分、駅舎を外した色を塗った部分にかかわる経費だと、土地を買った、それから設計を出したとか、土地の調査とか、そういうものを含んでの6億円という総事業費だと思うのですけれども、今ちょっと話を聞いていますと、JRに対しての補償料ですか、駅舎の移転補償料という話があったのですが、6億円の中には駅舎の補償料は含まれているのですか、それをまず1点お聞きします。

- 建設部長（成田 豊） 6億円の中には含まれております。それは、駅舎の移転補償ということで含まれております。

以上です。

- 委員（菊池広志） では、2点お聞きします。

駅舎の移転補償料で駅舎を建設するということを先ほどの話から聞きました。それで、駅舎の建設はJRとのこれからの協議だという話でしたが、やはり駅舎を建設するとなると、それなりのお金がかかるわけですね。であれば、その移転補償料となるものは、おおよそ駅舎を建てる分ぐらいのものにはなると思うのですけれども、幾らぐらいかかるか、それが1点。おおよそでも言えないのだったら大体でもいいです。

それから、もう一つ、駅舎を建てるようになったときに、それは自治体でやってくれというような話でありますけれども、では駅舎の登記とかはどちらの方にあるものか。建てるわけですから、当然登記はしますよね。それがJRのものになるのか、それとも自治体のものになるのか。当然補償料で建てるから、自治体のものにはならないでJRのものになると思うのだけれども、そのところをもしよろしかったらお聞かせいただきたいです。

- 建設部長（成田 豊） まず、駅舎の移転補償の額の件でございますけれども、かなり前から私どもスタッフもかわっております。当初の計画で約6億円以内ということで事業を進める約束でまいりました。その当時は1億5,000万円前後という予算配分の格好になっております。

それから、2点目の建築した駅舎がどこの所有になるのかという話でございますけれども、委員お考えのとおり、JRの財産というふうなことで管理されることとなります。

以上でございます。

- 委員（菊池広志） その話はわかりました。

それでは、今度はこの土地の件です。前回の委員会の中で企画部長から示された、今までの交換という形をとりやめて買いつけをしたいというような

ことで、このようなレイアウトが出たわけでございます。このレイアウトでもってやっていくというのは、年内という話にはなりましたけれども、このことについては、もう延びることはないのでしょうか、ちょっとお聞きしたいのですけれども。例えば年内にできなかったということで来年に持ち越されるというようなことであれば、我々はこのことが決まらないと、当然この委員会は幾らでも続くわけです、はっきりしないものですから。私が前に話をしたら、言えない部分は相手があった部分だから言えないということで話をされましたけれども、その言えない部分が余りにも多くて、今の件でも平成15年に出たそのJRの話を、今提出してもいいですよと話がありましたけれども、何でもっと早く提出しなかったのかなと考えています。というのは、平成15年のときに、それはもう協定しているのだと。市長からお聞きしますと、この周辺整備と駅舎は別だという話はしていますけれども、どこでもってそういう話が出てくるのかというのはわからなかったのです。我々はこの委員会の中で、この周辺の整備を一生懸命考えて、これは別個だなということを考えていましたけれども、ただ補償料の中から駅舎を建てるというのは全然聞いていなかったのです。今川端委員から話があって、そのことがはっきりとした形で出てきましたけれども、やはりそれを委員会の中で、この駅舎を建てるためには補償料を払わなければならないよと、その補償料でもってJRが駅舎を建てるのだよというふうなことであれば、それなりのまた話はしたのです。だから、それは今出してもらっては結構だけれども、何でもっと前に出してもらえなかったのかなと思っています。そのことを、出せなくて出さないのか、要求されなかったから出さなかったということになると思うのですけれども。

それから、もう一つは、市長が今まで話をしていた駅舎と、この周辺整備は別個のものだということであれば、私の考え方では電源三法交付金を使用するのであれば、この補償は別個になるものではないかなと考えていたのですけれども、これは総事業費6億円の中に含まれているのではないですか。その部分がどうしても理解できないのです。話をしたときは全然違って、今話を聞いたら総事業費6億円、その6億円の中に移転補償料も入っていると。その移転補償料で駅舎を建てるのだということであれば、この周辺整備と駅舎の問題は違うということが全く、また同じ問題になってしまうのではないか。そこのところをちょっと詳しくお聞かせください。お願いします。

○企画部長（渡邊 悟） 移転補償につきましては、これは単純に財源の問題だけで分かれていたというのが本当のところでは、この移転補償は、この中の工事と一緒にではなくて、移転補償の部分は一般財源を使わなければならま

せん。そういうことで分かれていたと。それから、あとあそこは高さが違うために、駅とは当初別々に考えていたようでございます。ところが、高さが違うために、これを例えば駅を後でやるということになると、70センチの高低差を解消するのに、また壊してやらなければならないと。そういうことで、できたら全部一緒にできないかということで、去年の段階から本当に大きな見直しをして、図面が違うというのもそうです。菊池広志委員からもお話がありましたけれども、土地を買った方がいいのではないかと、広げる方がいいのではないかと、そういうこともございまして、全く見直したという経緯がございます。ですから、平成15年の協定書にありますけれども、下北駅周辺整備計画につきまして、協定書はそのまま続いてはおりますけれども、全く新しい考えでやり直した、しかも駅舎も効率よくやるため同時にやった方がいいと、そういったことも含めての今回のやり方ということで、ご了解をいただきたいと思っております。

- 建設部長（成田 豊） この計画が土地等を確保して、これ以上延びないのかというお尋ねがございましたけれども、この広場の設計の期限は平成18年12月22日までになっております。また、5月12日に皆さん方が現場を視察した際に、もっと南側の方に延ばした方がいいのではないかとのご意見を賜りました。それに合わせまして、所有者の方と並行して協議を進めさせていただいております。一番の端っこで日本通運のご協力も7メートルほどいただくように内々調っておりますので、もうこれ以上おくれられないものと確信して私ども進めているところでございます。

以上です。

- 委員（菊池広志） では、私の方で間違っていました。電源三法交付金の中でこの下北駅前整備は進むものと考えていましたけれども、駅舎の部分に関しては一般財源から持ってくるということですね。私だけかな、皆さん、それ知らなかったのではないですか、一般財源から持ってくると。我々は、電源三法交付金からの予算でもってやって、そして総額6億円という形を考えていましたけれども、ところが、駅舎の部分の補償を一般財源から出すとなると、それはまた話は違うのではないですかと思っております。いや、一般財源から出さなければならない事情というのはわかるのです。だから、そのことをもうちょっと早く知らしめるべきであって、この中に何人、半分の方はいらっしゃるでしょうか。一般財源から出すということはわからなかったのではないかなと思っております。ただ、このことがわかっただけでも私はいいなと思っていました。私だけわからないのかもしれないけれども、そうではないなと思っていましたので、一応返事はいいです。それでわかりましたから。

○委員（川端澄男） さっきの続きになりますけれども、実はこの間蓮井会長と会いました。蓮井会長は今入院して、もう4カ月になります。それで、11月7日に川下委員長のもとで委員会が開かれるということで蓮井会長もかなり安心しているような状態でありまして、これはスムーズに進めてくれるなど、病室の自分のベッドの上で感謝をしているということでもあります。

ところで、さっきも話が半端になったのだけれども、下北駅周辺整備促進協議会に二百四、五十名の方が入っております。ほとんど蓮井会長のもとで、あそこのコスモスの花を植えたり草を刈ったり、ごみを拾ったりしております。蓮井会長は足が1本ないのです。1本の足でもってあのくらいやっているのに、平成6年から平成16年まで、3年ぐらい前に、ああ、もうだめかなと、もうこれを解散するか、自分がやめるかというふうな話もあったのです。今こうして電源三法交付金から金が来るというので、蓮井会長もかなり気持ちが安心して、余り安心したのかわからないけれども、足から腰にあって、2回手術して、そして今度はばい菌が入っているわけであります。本当にかわいそうなものだけれども、蓮井会長には、私も頼んだ関係上、さっきも話したように、下北の町内会で蓮井会長をかなりいじめて、これを促進するように話した経緯もあります。

それで、2年前にこの町内会が、海老川地区は12町内ありますけれども、この町内会の会長たちを私の車に8人乗せて、そして見に行ってきました。さっきも話したように、野田駅は道の駅と合体した駅でありまして、JR、JRと言うけれども、我々は道の駅なものか野田駅かわからないし、駅舎の改札口を見つけるのに大変だったのです。それだけ山、里、海、この加工品からいろいろなものが並んでおりまして、改札口を見つけるのに大変だったのです。でも、ここだ、あそこだとようやく見つけて、そして線路に渡って写真を撮って帰ってきたのだけれども、実はその中で一応結論は、この下北駅と、そして道の駅と合体した駅をつくってくれということは海老川地区連合会の頼みであります。ただ、きょう渡されたこの平面図では、ただここは駅舎だ、駅舎だと、金の出口がわからないような状態でありますから、ひとつ道の駅も考えてもらいたいということでもあります。ということは、中央町の旧アークスプラザにも、山、里、海のもは全部売っておりました、加工品も。ところが、今やめて市の方でこれを取得するようになりましてけれども、下北町にはオレンジハウスもありました。これもやめております。だから、あの周辺の人には、一生懸命コスモスの花を植えたり、草取ったり、ごみ拾ったりしているのに、ああいうところでそういう品物を売っているところは、ありますけれども、遠くなります。それで、できるものであれば、これ

から設計の段階に入る場合に、道の駅と合体したものをつくってもらいたいということが町内会の、私は海老川地区連合会の顧問もやっておりますから、これは市の方へ強く要望しながら市の考えも聞きたいと、こう思っております。よろしく願います。

○委員長（川下八十美） ちょっとまた新しい形なのですが、企画部長、答弁できますか、道の駅の関係。

○企画部長（渡邊 悟） 今道の駅も一緒に形をつくれないうようなお話でございましたけれども、今の交付金は平成19年度までに使い切らなければならない交付金でございます。これと道の駅を一緒にした形で物理的に、時間的にやれるかとなりますと、またJRとのゼロからの交渉、すべてゼロからやっていかなければならないです。それが可能であれば取り入れるということも考えられるかもしれませんが、現実問題として、今これまで進んできたのをゼロに戻して道の駅と一緒にした形でやれるかといいますと、私たちは今の段階ではちょっと自信ありません。ということで、答えにならないかもしれませんが、ご了解いただきたいと思えます。

○委員（川端澄男） それ考えていないと言うのだけれども、例えば道の駅をつくって下北駅を、「さしかけ」とこの辺では言うけれども、軒下のところに置いてもいいくらいのもので、口は出すけれども金を出さない人間に、それにもう少し行政を担当している部長たち、もう少し力つけて考えてみてください。市民のために雇用対策があるだろう。だから、部長、それは考えていないとかと言わないで、道の駅をつくるという気持ちでこれから出発してもらいたい。私は、1階でなく2階にして、2階の方は加工品でもよい、そしてそれにテナントも入れたりもできると思えます。みんな首を長くして待っております。余りにも行政が、これを決める、これを可決してくれと、そういうものばかり出すのではなく、やっぱり市民の声も聞かなければならないと思えます。部長たち、もう少し力つけて願います。

○委員長（川下八十美） 委員長のもとで深く受けとめておきますので、よろしく願います。

ほかに質疑ございませんか。

○委員（牛滝春夫） 建設部長に確認したいのですけれども、先ほどの説明でありますと、駅前広場は平成19年度、平成20年度の2カ年計画で整備していきたいと、このようにお話しされておりました。そして、駅舎の建設と言えませんが、移転といいますか、それは平成20年度中に完成を見ていると、このようなお話をされました。そして、企画部長は、これらにかかるその費用は平成19年度中に使い切らなければならないと。こういうお話を今いただ

きました。では、その移転費は、これは一般財源の方でありますけれども、平成20年度の整備事業の方には、これはもう一括して平成19年度の中でその予算を盛り込んでしまうということで確認してよろしいのでしょうか。

○企画部長（渡邊 悟） 説明がちょっと足りませんでした。平成19年度に使い切らなければならないのは、今基金として持っている1億6,000万円でございます。これでは当然足りませんから、このほかにあと追加分は当然後で追加ということで、今完全に平成19年度中に使わなければならないのは1億6,000万円ほどの金でございます。これを使わないと、結局返さなければならないと、事業自体もやれなくなってしまうので、とりあえずこれを使うということも大きな目的の一つです。

○委員（牛滝春夫） わかりました。1億6,000万円という内々の金ですね。では、もう一つお聞きいたしますが、総工費6億円程度という、その程度という根拠は何なのでしょう。例えばこの計画の中には、6億円かかるのだとか、あるいは5億5,000万円かかるのだとか、設計した段階で金額というのは出ないものですか。6億円程度というのはどういう考え、受け方をしているのでしょうか。そこまでまだ進んでいないということでしょうか、設計とか予算とか。駅舎移転の方は、これは別枠ですからなんですけれども、広場の整備事業費の中の6億円程度というのは、これちょっと、平成19年度、平成20年度、来年、再来年ですよね。そういう間近な時期に来ているのですけれども、ちゃんとした金額というのははじき出せないものなのでしょうか。

○建設部長（成田 豊） お答えいたします。

先ほど1月18日にこれらの設計にかかわる業者が決定したというふうにお話ししておりますけれども、その業者が成果品としていろいろな図面、あるいは計算書を出していただくことになっております。その詳細の工事費等の算出書が出てこないとはっきりしたことが言えませんが、従来から大体この関連の事業としてそのような額で進めてきたというふうなことでございますので、ご理解をいただきますようお願いいたします。

○委員（白井二郎） 関連なのですが、総額で6億円ということですが、先ほど牛滝委員も言っておりますが、この根拠もさっぱり私わからないのです。総額6億円ということは、広場の整備と駅舎の補償を入れての6億円ということで、たしかそのように言ったと思っているのですが、ということは駅舎の金額は幾らで、補償金は幾らぐらいで考えているのか。どういう形で積算しているのか。全然わからないで、ただ6億円、6億円と言われても、はっきりわからないのです。ということは、きちんとそれを分けてほしいということです。駅前広場の駐車場とかその辺で幾らかかりますよ、補償費で幾ら



かかりますよということが全然示さないで会議をすると、開くと。私は、さっぱりその辺をつかめないものですから、どのように考えているか、その辺をひとつお願いしたいと思います。

また、先ほどは駅舎はあくまでも一般財源でやるということなのですが、一般財源というのは定例会にかかるわけです。臨時会もありますでしょうけれども。ということは、全然根拠もないのに一般財源から来るといっても、我々特別委員会としても判断の仕方がない。やはり駅舎を建てる時点、平成20年度に何か先ほどJRとお話をして、平成20年度には工事を進めたい、完成したいという意向はわかります。十分わかります。早目に私もつくってもらいたいと思っております。ただしどういう形で、先ほど川端委員がおっしゃったとおり、道の駅をつくって、でもJRが却下すればだめ、当然金を出さない、口は出す、先ほど言ったとおり。そういう形で本当にいいのか悪いのか。やはり金を出す以上は物も言う、当然お願いもするというスタンスを今後はとるべきではないかなと私は感じています。その辺のところをもう一度確認したいと思います。

そして、またなんですが、やっぱり今後は先ほど企画部長が前回の委員会から進展がないと。でも、このように我々委員が疑問を感じているところをやはりわかってもらいたいと。そして、またこのように両部長がいる中で、大変失礼ではございますが、何かもともとの横の調整がないみたいな気がしています。本当にこの会議を開く前に建設部、また企画部とも部長初め課長、皆さんでヒアリングなどをやって、きちんとした形で臨んでいるのか、ちょっときょうの会議で疑問視しています。恐らくやっていると思います。ぜひ今後とも各部の調整といいますか、委員の皆さんから質問が出た場合は、我々にわかりやすく、我々役所の言葉というのは余り理解できませんので、わかりやすい言葉で、なるべく口頭でなくこういう形で示してほしいと思っています。

以上、何点がよろしく申し上げます。

○企画部長（渡邊 悟） できるだけのお答えをさせていただきます。

今委員のおっしゃることはよくわかりました。ただ、私たちも全く会議とかそういう前に、協議していないというわけではなくて、ふだんからやっていますけれども、やっぱり相手もあることで、中身がしょっちゅう変わります。この図面もこのとおり変わってきました。本来であれば、全部予算も決まった段階で、これで大体決まりましたというような形で示すのが本当は筋でないかなと思いますけれども、途中動きながらもこうしていますよと、それについてご意見を下さいといったようなことも含めて今出しています。

ですから、次また変わるかもしれませんが、だんだん変わる部分が少なくなってきました。そういうことでやっていますので、ご理解いただきたいと思います。

- 委員（白井二郎） 今の部分はわかりました。今後ともよろしく願いたいと思います。

私が聞きたいのは、私もいろいろ聞かれるわけです、どうなっているのだと。ということは、先ほど菊池広志委員も言ったとおり、電源三法交付金を使うのだと。でも私の理解では、駅舎はむつ市でもたないよということは何かこちら辺でちょっと聞いた覚えがあります。このばさっとした6億円という形でなく、駅舎は幾らだよとか、これは幾らだよというのを今後示せないものでしょうか。我々も聞かれた場合は、このようになっているからこうですよとか、いや、今駅舎を建てるにおいては、このような金が一般財源からかかるそうですよとか、やっぱり聞かれた場合に「知らない」では通らない場合があります。もしその辺のところがわかりましたら、きょうすぐ即答は無理だと思いますので、ぜひまたの機会にでも、ひとつその辺を我々にどうか、皆さんがどのように考えているか私はわかりませんが、示せる範囲で何とぞお願いということにとどめたいと思います。

- 委員長（川下八十美） 委員長からもお願いをしておきますので、ご理解してください。

- 委員（柴田峯生） 私は、流れの状況から見まして、せっかく設置の施設計画案が出まして、しかも6億円程度ということですから、6億円に達するということだと理解しておるわけです。その中に駅舎の1億5,000万円相当も、入っておるといようなことを先ほどの答弁で理解できまして、これ12月定例会に予算をおかけになると、タイムリミットが先ほどの電源三法交付金の1億6,000万円ですか、そのお金の使い道の関係もあってタイムリミットが出ると思うのですが、そうしますとこの予算は平成18年度、平成19年度、平成20年度にわたる継続費として設定になるのかどうか、それとも単年度ごとの事業として今後予算化していくのか、その辺まず最初にお伺いしたいと思います。

- 企画部長（渡邊 悟） 一応これ建設部とも協議が必要ですがけれども、単年度で予定しております、単年度ごとの事業ということで、申請がそういうことになります。

- 委員（柴田峯生） そうしますと、一応前庭の方はこの線で、右、左の線で本日大方異議がないだろうと、私自身は異議ございませんので、この案でよろしいと思うのですが、先ほど川端委員から出ました駅舎の問題については、

補償支払いの段階で委員の中からこういうお話があったということも含めて、協定の履行の段階でお話し合いをして、それが継続費でなくて単年度ごとでいくというわけですから、恐らく来年度、平成20年度、我々議員になっていない時期にお話しになることだろうと思うのですが、そういったことから考えましても重要な川端委員の発言ですので、取り入れて交渉していただくということを私はお願いして終わりたいと思います。

○委員長（川下八十美） ほかに質疑ございませんか。

○委員（新谷 功） 下北駅前整備促進特別委員会は、平成17年の12月に設置を決めて、年が明けて平成18年2月から特別委員会を開いて今回で4回目なのですよね。そこで、私は今何を言いたいかといえば、一応JRとの基本協定が平成15年度に結ばれていると。これは、今までの中間報告を見れば、たびたび企画部長から言われているのです。実は、私今2月28日、あるいは6月13日など、このときも平成15年にJR東日本と締結した下北駅周辺整備事業に関する基本協定に基づいて云々と、それから下北駅前整備の総事業費についての委員から質疑があったときに、企画部から、駅舎等全部含めて6億円前後になるという答弁ももらっているのです。その具体的なのは、この駅舎の設計等によって変わってくるものと、このように理解しておりました。そこで、本題に入りたいと思いますけれども、この今の計画案を見れば、私はこの敷地面積からいけば、おおむねこのような形になるのではないかなという思いをいたしております。駐車場あるいはバスプール、それからロータリー、こういうものを張りつければ、こういう形になるのではないかなという思いをいたしております。そこで、実は設置施設計画案を今改めて私見しておたのですけれども、先ほど建設部長の方から、駐車場の51台、これ一般車両が48台、身体障害者用3台。これは、どうして51台に決めたかといえば、その根拠なるものを少し言ったのですけれども、実態調査をして大体51台と決めたと。実は、きょうこの委員会があるものですから、私9時30分ごろ駅前に行って、実際駐車場に幾ら車がとまっているのかなという思いで見ました。それで、9時30分というのは、8時5分に八戸行きの快速、あるいは9時16分の野辺地行きが走ってからどうなのかなと行って見た結果、車が31台駐車してあったのです。それから、駐輪場の方は自転車54台、これはきょうだけの時点か、また不法に置いている自転車もかなりあるなど、こう思ってきたのです。実はこの駐車場の件で、私たちが仮に東京、県外に行くときはほとんど野辺地に車を持っていくのですけれども、そうすれば、1泊、2泊するわけでしょう。そういう観点から物を考えてみれば、この51台は、これはこれでいいのですけれども、その駐車の仕方といいますか、例えば1

泊あるいは連泊で置く場合は、そのまま黙って置いてもいいものやら、その辺どうなるものかなと。1泊、2泊すれば、本当に51台あっても、実際利用する方があれば、そんなにも残っていないと思うのです。だから、その取り扱いはどうなるものか。あるいは、そうなった場合には、1泊、連泊でも、また青森、八戸に行って日帰りするとしても、朝行けば夜まで駐車しておくわけでしょう。そういう場合の取扱いはどうなるのかなという思いと。

それから、今のこの駐輪場、これはしようがないでしょうね。トイレの件なのですけれども、今の男性用の小が2、大が1、女性用が2、身体障害者用が1と、このように計画してあるのですけれども、これでいかなものかなと。実は、男性用の小の2は、これでいいと思うのですけれども、実は大に関して一つというのはどうなのかなと。大というものは時間がかかるものですから、これはいかなものかなと。割合に駅のトイレを利用する人は、そんなにも時間的に余裕を持って行かないと思うのです。だから、その点と、女性用の2、これも少し足りないのではないかなと。私は、4あった方がいいのではないかなと。もっとあればいいのですけれども、その辺の考え方をちょっと聞いておきたいと思います。

それから、私はたまたまた言おうと思って、一番最初に手を挙げたのですけれども、この図面を見れば、この辺は降雪地帯であるから、雪の心配を本当はしていたのです。それで、雪の堆積場所がないから、これはどうするのかなと。そう思っておったら、花壇の方のコスモス畑をその堆積場にして利用すると。こう言ったから、ああ、なるほどなと、こういう思いで、私がそれらがなかった場合には、この広場の整備工事にロードヒーティングとか消雪工事を考えたらいかなものかしょうかと提案しようと思ったけれども、そういうふうにコスモス畑の方になるし、私は今のコスモス畑の位置を初めに見たときには、花壇なんていうのは、やっぱりそこに花を植えて、駅を利用する方の心をいやすとか、そういうことにつながる場所であるから、何でこの奥に。これは、駐車場がこっちにあって、わざわざ駐車場から歩いてコスモス畑に行く人はいないと思って、何でなのかなと。たまたまこういう形で残ったから、コスモス畑をつくるのだなということで、本当はここに不満を持っておったけれども、冬の雪の堆積場所と言われれば、これもいたし方ないかなと。本来であれば、駅前の正面の方にやっぱりそういう広場、花壇を設けるべきでないかなと、こう思うわけです。

次に、整備用地の面積だけれども、これは今まで3回の間接報告を見れば、実は民有地と市有地は交換すると。その交換するに当たっては、土地の鑑定

をしなければならない。当然だと思うのです。それが8月のこの特別委員会で、実は雲行きが変わってきたと。変わってきたというのは、そういう計画であったけれども、中間報告には皆さんと一緒に駅前広場を視察した後に議論がそういうふうになってきたと。これは、売るのであれば、買って、財源があれば買って結構だと思うのです。そこで、民有地が1,900平米あるのですよね。それから、むつ市の所有地が3,700平米と。民有地を買うにしても、鑑定を依頼しておったでしょう。鑑定結果が出たと思うのです。出た。しかし、いろんな事情でそれは公表を差し控えたいと、こういうことですので、これはいたし方ないかなと。でもそれはやっぱり出していいのではないかなと。我々旧アークスプラザを買うにしても、9億5,000万円、改修費が15億円云々と。これ15億円が20億円かかるかどうかわかりません。ただし、今の段階ではそうだと聞いてはいるけれども、やっぱりその鑑定結果というのは出されないものかどうか、これもまた再度伺っておきます。

それから、実は先ほどJRの駅前の計画案でもっていよいよ工事、建設スケジュールの話が出たのですけれども、実は平成19年度、平成20年度にわたって、平成19年度は駅に向かって駐車場の方を整備すると、あるいは平成20年度には右側、バスロータリーの方を整備すると。こういうことなのですけれども、実はさきの2月28日の特別委員会の中間報告の中には、平成19年度末までに、第1期工事として駅舎以外の駅前広場整備をすべて行う計画であると。これは、2月の時点であるから、当時はそうだったけれども、いろいろ事情は変わったといえそうですけれども、その辺もお聞きしたいと思います。

そこで、平成19年度、平成20年度でもって駅前の両サイドを整備すると。これには基金が1億6,000万円あるのですけれども、今まで既にもう測量委託、あるいは設計委託、鑑定なんかにもかかっております。その工事を発注するに当たって、建設部長、これは駅舎は別としても、広場の整備に関しては、実際の発注段階になれば指名になるか、一般競争になるかわかりませんが、私これにはぜひとも地元企業ということを考えていただきたいと、こう思うわけです。昨今の公共工事が減少して、それらを業としている業者は大変な思いをしておるのです。そういう意味では、ぜひともそういう考え方で進めてほしいなど、部長のお考えも聞いておきたいと思っております。

○建設部長（成田 豊） かなりの項目のお尋ねでございますけれども、まず1点目の駐車の台数でございますが、我々もできるだけ多いのが望ましいと思っております。さまざま担当職員等も各地区のこういう施設を見て回りました。弘前駅で50台、それから黒石駅で11台ぐらいだということで見てき

ております。とめ方なのですけれども、野辺地駅であれば、乗車券を買わずと、その駐車場のステッカーを貸し出しすると、そうすれば、その間1泊でも2泊でも駐車できることになっております。これも今新谷委員からご提案ありましたので、今現在の駐車場には、あの辺に勤めている方も若干とめているのではないかというふうなことで、今度は51台と限定されますと、その辺の対策も講じていかなければならないと思っております。オープン、供用開始するに当たりますは、JRとも協議して、その駐車している車が本当に旅行者であるのかどうか、確認できるような方法もひとつ検討してまいりたいと思います。

それから、二つ目のトイレでございますけれども、トイレは面積が狭くてもかなりいろいろな設備が絡むもので、工事が結構高上がりになるわけでございますが、そういう意見もありますので、特に私も飛行場なんかを使った場合に、出発まであと何分しかないというときに、かなり大の方が込む場合を経験したこともあります。そういうふうなものも一応ご提案ということで、これから設計会社の方と協議して、また予算も見ながら前向きに検討してまいりたいと思いますので、ご了解いただきたいと思っております。

それから、コスモスでございますけれども、若干でございますが、駐車場と県道の境、それから駅舎と駐車場の間にも植えられるスペースを確保しております。これからも下北駅周辺整備促進協議会の蓮井さん、今体調を崩しているようでございますけれども、蓮井さんと、それから役員の方をお願いして、もっとその近くを見て、さらに広い方にも気を配っていただきまして、時間まで余裕がありましたら、そちらも見ていただきたいというふうに願っております。

それから、土地の価格でございますけれども、先ほども申し上げましたように、どうしても12月定例会には出さなければならないということで、日数がたてばいつかは明示しなければならない時期が来ると思っております。そういうことで、今まで公開しないというふうなことをお願いしてきましたけれども、大体鑑定が出まして、その鑑定に基づいてやりたいと思っております。平方メートル当たり3万円前後になるのではないかなというふうに予算を組んで提案しなければならないものと思っておりますので、よろしく願います。

それから、工事の期間が当初平成19年の末までにとということで説明した経緯があったようでございますけれども、予算等の絡みで2カ年に振り分けなければならないというふうなこともございますので、ご理解をいただきたいと思っております。

それから、発注に当たりまして、地元企業というふうなことでございますけれども、これから詳細12月20日前後までにこの細かい設計書が出てきます。そうすれば、私が考えるには、そんなに面倒な工事でもないと思いますので、設計された方の管理の方がチェックすれば地元の業者でも十分やれるのではないかと、当然地元でそういうお金を落とすのが市の立場でもあります。そういうふうなことでぜひ進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（川下八十美） ほかに質疑ございませんか。

○委員（瀨田栄子） 駅舎の設計等はまだまだだと思いますけれども、これから必ずこの事業は進むものだと思いますので、お願いしておきます。

北海道の駅とか空港を見ますと、よく木をおしゃれに使っていますので、その辺のところをちょっと配慮したデザイン等もお願いしたいなと、それをひとつお願いいたします。きょう函館の駅も見てまいりましたけれども、階段とか、一部床なんかも集成材を使っております。その辺のところ、あとイス等ももちろん木でできております。空港なんかもおしゃれに天井に木を使ったりしておりますので、そういうところはよく見習って、できましたら地元産材を使うような企画を提案していただきたいなと思います。

以上です。

○建設部長（成田 豊） ご提案ありがとうございます。近代的な建物よりも、そういう木を使った建物の方がほんのり柔らかい、暖かい感じがいたします。特にこの辺は、最近ヒバがちょっと数が薄くなっているようでございますけれども、やはり木を使った方が暖かみがあると思います。そういうことで、これはJRの方をお願いするということになりますけれども、そういうふうな方向で協議をさせていただきたいと思いますので、ご理解願いたいと思います。

○委員長（川下八十美） ほかに質疑ございませんか。

○委員（菊池広志） ちょっとこれごらんになっていただきたいのですが、駐車場の方に直接入り口をつくって、それから逆の北側の花壇がある方に、今度は出口をつくることによって、中央の交差点の信号がある部分、駅前から真っすぐ出る部分がすごくスムーズに流れやすくなるということも、私こうやって見ながら考えたのです。こちら辺はこれからですが、いかがでしょうか。

○建設部長（成田 豊） 短距離の中にこういう出口を2カ所、3カ所というふうになりますと、信号のかかわりもありまして、信号待ちをしている車等もあってなかなか容易でないと思います。簡単にはいかないと思いますけれども、

ども、それでもつい最近私も担当者と話し合っ、特に今お話があった北側  
の出る分、中央町の方に出る分があれば、また県道海老川新町線から来る車  
の右折が幾らかでも緩和されるのではないかというふうなことを考えたこと  
もあります。それぞれ公安委員会等のかかわりもありますので、菊池広志委  
員の意見も踏まえながら、これから協議検討してまいりたいと思います。  
よろしく願います。ありがとうございます。

○委員（川端澄男） さっき新谷委員がお尋ねした土地の売買の関係で、さっ  
き部長が平米当たり3万円ぐらいと言ったのだけれども、これ民間の方と  
1回、2回とか、交渉したのですか。この平米当たり3万円といえば、坪当  
たり10万円ぐらいだから、これはいかなものかなと思って、これで決まる  
か決まらないか、ちょっともう一回願います。

○企画部長（渡邊 悟） 答えいたします。

これについては、事前のお話し合いは全くありません。鑑定そのままでご  
ざいます。これからの交渉になります。

○委員長（川下八十美） ほかにこの下北駅前整備促進についてのご意見が  
あれば賜りたいと思います。

（「なし」の声あり）

○委員長（川下八十美） ないようでありますので、委員長から時間の関係も  
ありますので、全く議論する気持ちはありませんが、今後の宿題として、今  
答弁でもありますように、JR大湊線の下北駅というのは、あくまでもJR  
の所管のところですよ。そういうことで、駅舎の建設に関して今明らかになっ  
たように、市の方の移転補償費で建築の方も賄うと。JRの方では一切建物  
等についてはお出しにならないと、こういうご答弁でありましたので、この  
辺のところは将来の一つの宿題として、課題として皆さんにもお考えいただ  
ければありがたいなと、こう思っております。

ほかにご意見がなければ、これで閉会したいと思います、いかがでござ  
いましょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（川下八十美） ご異議がないようでありますので、本日の特別委員  
会は、これで閉会しますが、中間報告の取りまとめに関しては、正副委員長  
にご一任願えればありがたいと思うのであります、いかがでございませ  
るか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（川下八十美） それでは、そのように取り計らいをさせていただきます。  
ます。

以上で本日の特別委員会を閉会させていただきます。長時間ありがとうございます



ございました。

(午後 2時37分 閉会)

上記のとおり相違ありません。

下北駅前整備促進特別委員会

委員長 川下 八十美